



飛驒の匠文化館 [写真:木寺安彦]

## 吉田さんと一緒に携わった 熊川宿と飛驒古川の 町並み保存

西村幸夫／東京大学教授

吉田桂二さんとは町並み保存のいろいろな場面で一緒にする機会がありました。中でも一番記憶に残っているのは、日本ナショナルトラストの調査事業で熊川宿(福井県上中町、現若狭町)と飛驒古川町(岐阜県古川町、現飛驒市)に関わったことでした。

熊川宿は小浜から京都に至る鯖街道のうち、小浜寄りのところに位置する中継地点の宿場町で、この集落の調査を1985年度に(財)観光資源保護財団(現日本ナショナルトラスト)が実施した際に、私が明治大学助手として主たる調査員として現地入りし、吉田桂二さんは京都大学の西山卯三先生と共に調査顧問として、私たち明治大学チームを指導していただくという形でお目にかかったのです。

その報告書『さば街道熊川宿の町並み—イメージネーションを喚起するまちを』(1986年3月、(財)観光資源保護財団)に吉田さんは鯖街道の四つの力が入ったスケッチ

チ(小浜三丁まち・遊郭街の遺構、大原・花尻橋のあたり、鯖街道・正円寺のあたり、鯖街道・町居の集落)とともに「交通の町においての熊川」という序文を書いてくださいました。

この調査のあと、私も吉田さんそれぞれに熊川宿と関わりを持ち続けていきましたが、そのなかで特筆すべきなのは、中条橋たもと旧熊川村の初代村長、逸見勘兵衛氏の旧家が放置され朽ち果てる寸前までになっていたのを1995年に町の文化財に指定され、吉田さんの設計によってモデル住宅として再生されたことです。川沿いの建物だったので、裏の老朽の様子も丸見えだったので、見事に蘇っていく様もよく見えたので、熊川宿の人々にとつてまち再生のシンボルとして映ったことと思います。現在では、喫茶店やギャラリ、お泊まり処としても利用され、宿場の拠点のひとつとなっています。

またこの旧逸見勘兵衛家のふすまには吉田さんの手になる襖絵が描かれています。墨で一気に描かれたと聞いています。スケッチの見事さと手際よさにはかたねから定評のある吉田桂二さんではあります。今でも見ることが出来るはずですが、この襖絵には圧倒されます。

熊川宿は1996年に国の重要伝統的建造物群保存地区に選定さ

